

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

学校名(西京極中学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成28年3月1日	評価日	平成28年2月26日
						評価者・組織	運営委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1	確かな学力	基礎的な学力の定着とわかる授業の創意工夫 家庭での学習習慣の定着 読書の習慣化	校内での研究授業教科会の充実 委員会主催の研修参加 1・2年生は毎週金曜日全員に週末課題を配布し、月曜日に回収 朝読書の実施と図書館の有効利用。各社新聞を2ヶ所に置きいつでも	基礎的な学力が身に付いていますか。先生はわかりやすい授業を工夫が行われている」と回答している保護者・生徒が多い。 平日1日あたりどれくらいの時間、家庭学習をしていますか。 平日1日あたりどれくらいの時間、読書をしていますか。	⇒	「アンケート結果から、「家庭での学習習慣」や「読書習慣」の定着が本校の課題となっている。本校の生徒のスマホの所持率は全国平均よりも5.4ポイント高く、1日の使用時間2時間以上の生徒が全国より11.2ポイント高い。1日3時間以上使用する生徒は26%、4時間以上が12.3%もいる。携帯電話の使用時間を減らせば家庭学習や読書の時間の確保ができそうだ。	学校便りや学年便りで西京極中学校の現状を保護者に知っていただき、家庭学習や読書の大切さを再認識してもらう。また道徳や学活など様々な場面で継続した指導を徹底していく。	⇒	・生徒の携帯電話の使用時間を減らすのは保護者の役目で、学校の力だけでは限界がある。 ・携帯電話の使用時間やテレビを見る時間が減少すれば、読書や学習に時間を費やすのでは・・・？ 学校図書館の放課後の開館に向けた今後の取組方針の確認。特に3年生のための自学自習の場として活用方法を模索していく。
2	豊かな心	あいさつや正しい言葉使いの徹底 生徒が教師に相談できる環境づくり 自分や他人の人権を大切にしようとしている	朝の校門指導 生徒会からの呼びかけ 教育相談の実施 道徳の授業や人権学習の指導の徹底	あいさつや正しい言葉遣いができていますか。 困ったことがあれば先生に相談できますか。学校は相談しやすい環境です。か。 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	⇒	「生徒は正しい言葉遣いができている」と回答している生徒が半数だが保護者は逆の考えである。 保護者の半数は「学校は相談しやすい環境である」と回答しているが生徒は逆の見解を示している。 本校の9割近い生徒が学級や学年の集団の中で「人権を大切にしよう」とする意識がある。	・体験活動や様々な行事の場面で、自らの言葉で表現する場を充実させる。 ・生徒の言葉遣いが悪い場合は教職員がその場ですぐに指導する。 ・教育相談等で生徒が教職員に相談しやすい環境をつくる。	⇒	様々な行事で生徒が活躍できる場を設定し、「生徒のよさ」を見つけ、褒め、伸ばしていくことを心がけている。 ・学校運営協議会の活動と学校教育活動の関連付けを理事会でも考えていきたい。 ・地域の方に協力をいただき、大人と中学生との「しゃべり場」を設け、地域と密着した関係を構築する。
3	健やかな体	体育の授業や部活動指導の充実 ゲストティーチャーを招いての講座開設	体育の授業の充実ときめ細かな部活動指導の徹底 1・2年生は「非行防止教室」3年生は「薬物乱用防止教室」「性教育講座」の実施	部活動の参加率 万引きや薬物使用はなぜ犯罪なのか。	⇒	本校は生徒指導上、比較的落ち着いた状態を保っている。現状を維持し、更に向上させるための継続した指導を続けたい。	本校は生徒指導上、比較的落ち着いた状態を保っている。現状を維持し、更に向上させるための継続した指導を続けたい。	⇒	生徒の心身の発達を図るため、運動だけではなく、食教育や安全教育の充実を図る。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 NIE実践推進の校の取組	月に一度の4校校長会 月に一度の4校校長会 夏季小中合同研修会 生徒が各社の新聞を読むことができる環境づくり	小中の連携は組織的に機能していますか。 新聞を読む習慣はありますか。	⇒	・小中合同研修会をはじめ4校が忌憚のない意見交換を交わすことができた。 ・管理職や教務主任の定例会議も充実した内容だった。	・小中合同研修会をはじめ4校が忌憚のない意見交換を交わすことができた。 ・管理職や教務主任の定例会議も充実した内容だった。	⇒	中1ギャップが言われているが、小中が9年間のスパンで目指す子ども像を考える。夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。

## 4 総括・次年度の課題

- ・本校の課題である学力向上に向けたさらなる取組の充実を図るため、授業改善方法や週末課題の継続、各教科の研修会への参加など教職員に促していきたい。
- ・本校の課題である家庭学習の不足と、生徒の携帯電話の使用時間の長さの因果関係を考え、学校から保護者の方にも「学校だより」や「学年だより」を通じて、改善のための協力を依頼していきたい。
- ・次年度に向けてアンケート項目が、学校教育目標と関連したものになっているかの点検が必要である。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、より理解を深めていただくことができた。